



第16回大原社研シネマ・フォーラム

ヘルガ・メリツ監督のドキュメンタリー映画

『シーブルック農場のパラドクス 砕け散った夢、復活した希望』

(原題: The paradox of Seabrook Farms: Shattered Dreams, Restored Hopes) アメリカ合衆国・エストニア合作、2024年、85分
監督・脚本: ヘルガ・メリツ (Helga Merits) 撮影: アマリ・ベッカー=ウィートリー (Amerê Becker-Wheatley) 制作: メリツ・プロダクション
(<https://www.meritsproductions.com/>)

開催
方式

Zoomを使用したオンライン会議方式

日時

2025年12月9日(火) 17:00~19:30

上映時間: 85分

上映後には、監督ヘルガ・メリツ氏をオンラインでお迎えし、作品紹介および自由討論を行います。全体で約2時間30分を予定しています。

※映画は英語字幕付きで上映します。討論には日本語・英語の通訳が入ります。

要参加申込み [12月8日(月) 13時 締切]

参加希望の方は、2次元コードまたは、下記URLよりご登録ください。
申込URL <https://forms.gle/aNoLn2GfjzvRUBxCA>



主催: 法政大学大原社会問題研究所

お問合せ先 ▶

〒194-0298 東京都町田市相原町4342
[TEL]042-783-2305
[E-mail]oharains@adm.hosei.ac.jp

作品について

映画の舞台は第二次世界大戦直後のアメリカ合衆国ニュージャージー州に存在したシーブルック農場。5万4000エーカーという膨大な敷地に約4000人を雇用する全米最大級の冷凍野菜製造施設を兼ね備えた大農場は、所有者チャールズ・F・シーブルック（Charles F. Seabrook）自身によって運営された。シーブルックはアメリカ経営史においてアグリビジネスの先駆者として知られ、またアメリカ資本主義の成功者の一人として「農業界のヘンリー・フォード」との異名さえ持つ。だがその輝かしい企業史の裏には、真珠湾攻撃勃発後にアメリカで抑留された日系人やエストニアやラトビアからの戦争難民らをアメリカ戦時転住局の斡旋に基づきつつ農場へ引き受け、収容所の強制労働となんら変わらぬやり方で働かせ利潤を得たという暗い過去があった。自由の国アメリカでの成功を夢見て遠い国から渡ってきた人々は、このような差別的扱いを正当化するアメリカ社会の現実と直面し大いに失望した。だがシーブルックによる農場経営については今日に至るまで賛否両論存在し、その評価はいまだ定まっていない。この農場に収容された様々な出自の外国人労働者、またアメリカの悪名高き人種差別法であるジム・クロウ法の対象となった黒人も含め、ここではすべての労働者が平等に扱われた。労働者はその家族共々収容され、農場で誕生した子供たちも少なくなく、彼らには学校教育の機会も保障された。またそれぞれの民族文化に基づくレクリエーションや個人の信仰も保障されていた。労働者としての親世代はいつの日か農場を去り、子供たちがアメリカで平等な権利を獲得する日を夢見つつ、自立のために僅かばかりの賃金を蓄財することに勤しんだ。週七日勤務に加えバラックでの集住という過酷な環境において寝食を共にする労働者たちの間には、いつしか民族や人種の垣根を超えた相互理解や連帯も育まれていった。

監督のヘルガ・メリツは、入念な史料調査に基づきつつ、収容を体験した生存者やその家族など、日系人やエストニア人らおよそ50名を超える関係者へのインタビューを実施した。こうして生まれた映像作品は、人種差別と結びついた経済発展という現代にも通じるアメリカ社会の構造問題にかかわる重大テーマをシーブルック農場の経験から問いかけるものとなっている。本作品は2024年3月に初公開され、2024年ボストン・バルティック・フィルムフェスティバルに参加した。以後、アメリカ、エストニア、オランダなどを中心に欧米各国で上映されている。（進藤理香子）

ヘルガ・メリツ（Helga Merits）



ドキュメンタリー映像作家。エストニア系オランダ人としてアムステルダム大学で哲学を修了した後、新聞社やラジオ局などでジャーナリストとしてオランダ及びベルギーで活動した。その後、映像と音響による表現法に魅せられ、ドキュメンタリー映像作家としての地位を確立した。メリツの父親は第二次世界大戦中に故郷エストニアを去ることを余儀なくされオランダへたどり着いた避難民であった。このような父親の半生を描いたメリツのデビュー作『親愛なるパウル』（2007年、原題：Kallis Paul）はエストニアの映画賞であるテオドル・ルッツ賞（Theodor Luts Prize）を受賞した。メリツは以後、現在に至るまで数多くのドキュメンタリー作品を制作・発表している。その作品は一貫して、戦争を通じて故郷を追われた人々の生きざまを主要テーマとして扱っている。

法政大学大原社会問題研究所